

※下記のご意見の内容は速報として作成したものであり、今後各委員への内容確認を経て別途公表予定の議事要旨では記載内容が変更となる場合があります。

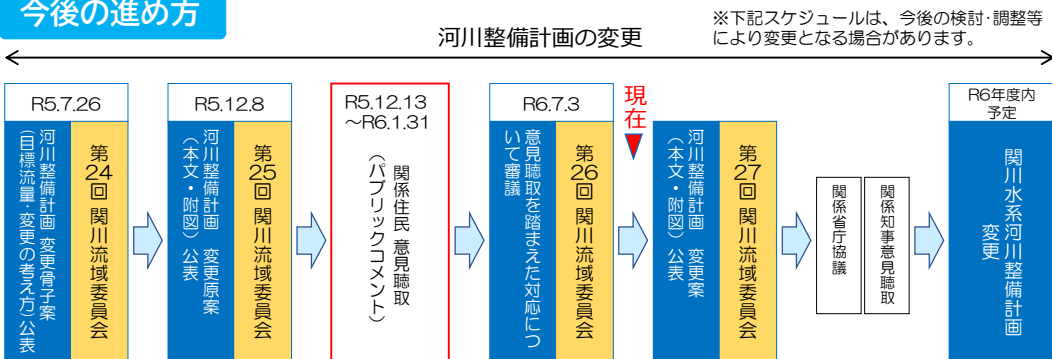
- 地域から多くの意見を頂いた「津波の遡上」や「海水への影響」に対し、それぞれ専門的な部会、委員会で検討されることについて、とても大事なことと考える。地域住民の懸念に対して早急に検討いただくとともに、地域の不安が解消されるよう丁寧に進めてほしい。
- 保倉川放水路を含む関川直轄河川改修事業は、非常に大きな事業費ではあるが、氾濫被害や人的被害が軽減されることから、整備効果も大きく重要な事業であり、地元自治体として早期の効果発現を強く望んでいる。
- 最大クラスの津波（L2津波：数百年から数千年の頻度）は、比較的頻度の高い津波（L1津波：数十年から百数十年の頻度）のように施設で守るものとは異なり、その地域のまちづくりで守っていくという施策となっている。今後どのようにしてL2対応の守り方を進めていくかがカギである。
- これまで津波の浸水リスクが無かった地域に、放水路整備後は新たにリスクが生じることとなるため、被害の小さい大きいで判断せず、地域の方々にご理解いただけるよう説明していかなければならないと考える。
- 今後、津波等の懸念事項に対しても、現在進めているまちづくり検討と連動しながら、関係住民の理解が得られるよう進めていく必要がある。

関係住民意見聴取(パブコメ)を踏まえた対応

放水路整備後の放水路への津波遡上による被害のご懸念、ご心配  
→ご意見を踏まえた放水路の最終形状やまちづくりの検討内容について、  
学識者・専門家等からなる「保倉川放水路治水対策・防災まちづくり検討部会」を新たに設置し、検討・助言を頂く

放水路整備後の海水（塩水）、風、地下水の影響へのご懸念、ご心配  
→ご意見を踏まえた検討内容について、  
学識者・専門家等からなる「保倉川放水路環境調査検討委員会」で検討・助言を頂く

今後の進め方



◆第26回関川流域委員会を開催しました。

- 関川水系河川整備計画の変更（原案）等について、昨年12月8日に開催した前回流域委員会及び昨年12月から今年1月に実施した関係住民意見聴取（パブリックコメント）で頂いたご意見を踏まえた今後の対応（案）について、委員からご意見を伺うため「第26回関川流域委員会」を下記のとおり開催しました。
- 審議の結果、関係住民意見聴取（パブリックコメント）を踏まえた今後の対応（案）（保倉川放水路治水対策・防災まちづくり検討部会の設置、今後の進め方等）について了承いただきました。

開催日時：令和6年7月3日（水）10時00分～12時00分  
開催場所：上越文化会館 中ホール  
内容：  
 (1) 令和6年能登半島地震の現地状況  
 (2) 前回流域委員会で頂いたご意見について  
 (3) 関係住民意見聴取（パブリックコメント）の概要と頂いたご意見について  
 (4) 関係住民意見聴取（パブリックコメント）を踏まえた今後の対応（案）について【保倉川放水路関連】  
 (5) 保倉川放水路治水対策・防災まちづくり検討部会（仮称）の設置について  
 (6) 今後の進め方について

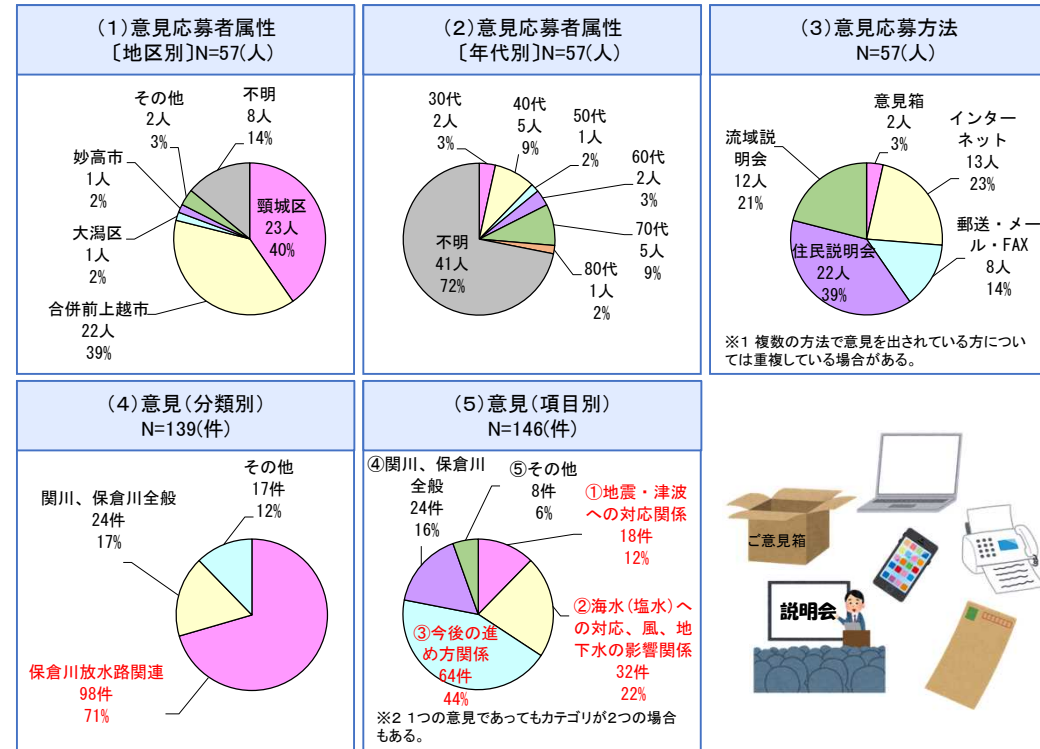


<関川流域委員会名簿> ※五十音順、敬称略

氏名	所属・役職等	備考
阿部 利夫	上越市町内会会長連絡協議会 会長	御欠席
阿部 義暁	新潟日報社 上越支社 報道部長	
梅澤 圓了	特定非営利活動法人 新潟県災害救援機構 理事長	
小熊 仁	高崎経済大学 地域政策学部 教授	御欠席
小池 俊雄	国立研究開発法人 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター センター長	委員長
小林 正夫	特定非営利活動法人 関川水辺クラブ 理事長	
高橋 信雄	上越商工会議所 会頭	
中川 幹太	上越市長	
野口 和広	上越農地協議会 会長	
細山田 得三	長岡技術科学大学 環境社会基盤系 教授	
松川 寿也	長岡技術科学大学 環境社会基盤系 准教授	
山縣 耕太郎	上越教育大学 大学院 学校教育研究科 教授	
横田 清士	一般財団法人 上越環境科学センター 理事・センター長	

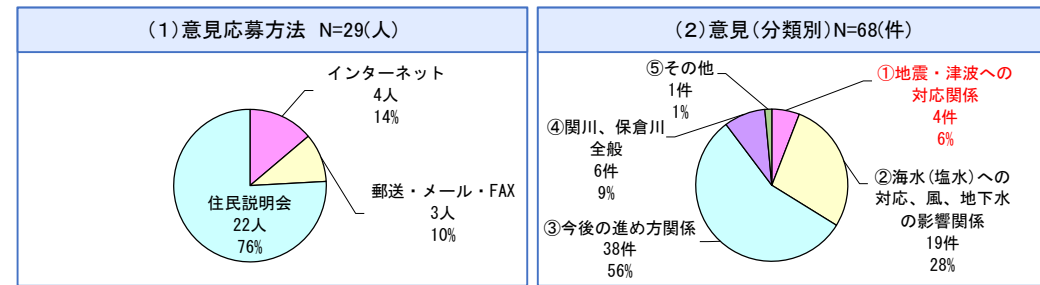
関川水系河川整備計画【大臣管理区間】変更(原案)に関する意見聴取(ご意見箱、インターネット、郵送、メール、FAX等で募集)よりいただいたご意見の内訳は以下のとおりです。

## ■全期間中に頂いたご意見分析結果

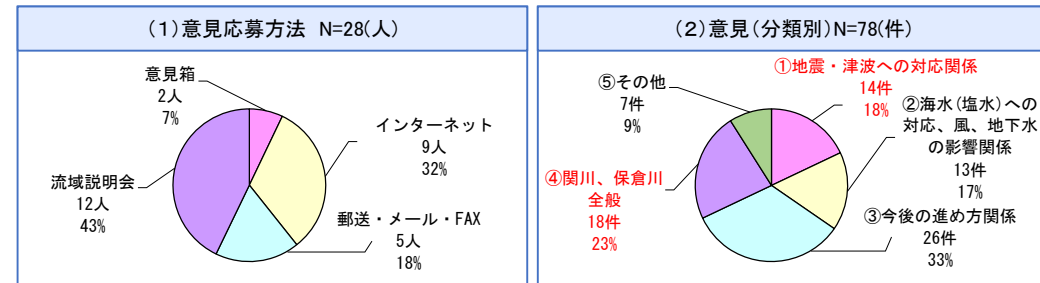


住民説明会を開催した12月は、今後の進め方関係のご意見が多く寄せられ、能登半島地震が発生した1月1日以降は、地震・津波への対応関係のご意見がそれ以前よりも多く寄せられました。

## ■12月中(12/18~31)に頂いたご意見分析結果



## ■1月中旬(1/1~1/31)に頂いたご意見分析結果



## ①地震・津波への対応関係

今年1月1日に発生した能登半島地震においては津波が関川が遡上し、浸水被害が発生している。  
今後整備される保倉川放水路についても日本海に繋がる放水路であることから、地震による大規模な津波が発生した場合、関川同様津波が遡上し被害の発生が予想される。  
よって整備される保倉川放水路の堤防等は大規模な津波を予想したものになっているのでしょうか。  
また、津波や洪水被害を予想したハザードマップを上越市が発行しているが、保倉川放水路の整備によりハザードマップも大きく変化すると予想され、その点に関して上越市とどのような連携や情報共有をしているのでしょうか。

## ②海水(塩水)への対応、風、地下水の影響関係

まさか海水が入ってくる河川がくると思ってなかった。内水が軽減するから仕方ないと思っていた。  
塩害は、稲作にも影響するため、潮止堰を設け、分派堰でゲートを開けて河川水を流してもらいたいので、考えを変えてもらいたい。海水が入らない形で進めていただきたい。浮島集落の意見。  
海水が入らないように、さらに欲を言えば津波が入らないようにして欲しい。予測結果を見ると心配である。

保倉川放水路のルート位置が決定したが、放水路流量が増えたことにより、川幅が増えたと理解して良いのか。また、増えた川幅は、東側へ増やしたのか?このルート決定にはどのような根拠があるのか。  
ここは特殊な場所であるため、放水路によって風の影響が増大することになるが、風について影響が小さいように見えてしまう。緩衝帯を設ける等、環境に対する協議を今後町内と真剣に行っていただきたい。

## ③今後の進め方関係

道路ネットワークが決まってから用地買収とか、大きな目標(スケジュール)みたいなものはあるか。  
放水路の話がH8で出て、H21で30年と出た。今回(整備計画を)変更していただけるのはありがたいがその度にまた30年度と言われる。地元は早くやってほしい。新潟県の財政ひっ迫は分かるがお願いしたい。

昨年の12/8に今後の進め方を公表しておりますが今後30年間の大きなターニングポイント、マイルストーンを早く公表していただきたい。  
それにより、大きなことを言うかどうか人生を歩むかが決まります。是非とも公表していただきたい。

## ④関川、保倉川全般

放水路ができるまでまだ月日がかかると思うが地震・大雨などの自然災害時の避難時の連絡方法がとられていないことが問題点、高齢化に伴ってお互いどうやって連絡するか町内会・頸城区・各家庭で真剣に考える時だと思います。

## ⑤その他

昨年は春以後、高温、少雨の月が多く、5,6年は続いています。気候変動等が当たり前で、梅雨時期がなくなっていると思う。  
最近、干ばつによる被害が発生して、河川や貯水池の湯水も深刻です。(矢代川)

## パブコメで頂いた主なご意見

保倉川放水路整備で、地震・津波対策は十分なされるのか。能登半島～佐渡、糸魚川～上越沖、中越沖～新潟沖方面での地震・津波への対策を十分にしてください。

保倉川放水路については、津波がきた時、被害が出ると思いますので反対です。  
現在海岸線に10m以上の高さの居住地が続いているおかげで、それに続く低地の平野部が守られているのですから、防護の大切な海岸を切ってははいけません。

保倉川放水路の整備よりも、地震対策に比重を移した方がよい。

栗浜の水田の揚水ポンプにモニタリングの装置を設置し、海水の浸透を含めて環境を監視してほしい。

予算ありきの話だと思うが、そもそも潮止め堰を造った方が安いのではないかと。矢板で対策するより、そもそも海水が入らないようにすればよい。  
海水が中に入ってくるこの前提とおっしゃいましたがそれがそもそも容認できない。  
東日本大震災のとき、津波で塩害の影響を見てきたが、悪臭がすごかった。  
数字だけ見せられても、納得できない。  
海水が入ったとしても出すということをするべき。

栗浜地内では地下水を飲料水として使用している家庭がある。地下水を引き続き飲用として使用できるのか確認してほしい。

私たちの地域は、保倉川放水路の計画案の移転地域に当たっています。  
住民代表として(地域のリーダーとして)該当の皆さんの意見をまとめてお伝えしたいと思います。  
いの一歩考えてほしいのは、一番最初に私たちの理解と移転という犠牲があつて初めて行われる工事計画と実施であるということをお忘れしないでほしいという意見が多数あがっています。  
地域に残る方の未来の環境ももちろん大切ですが、放水路に当たる住民専用の説明会を開いてほしいというのが、皆さんの総意です。  
地震もあり、今まで以上に計画の見直しや計画の実施が難しく大変かと思いますが、丁寧で真摯な対応こそが、誰にとっても明るい安心するまちづくりの第一歩だと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

河川の氾濫を危惧しております。一度の降水量が大変多くなってきております。このエリアも例外ではないのでしょうか。他のエリアの水害(浸水被害)をテレビの報道で見えています。  
30年計画のようですが、なるべく早めの対応(水害防止)をお願いいたします。  
温暖化が進んでいる状況なのではないでしょうか?よろしく願いいたします。

ご意見の全一覧は、高田河川国道事務所ホームページ 第26回関川流域委員会 資料3に掲載しています  
詳細は右のコードをお読み取り頂きご確認ください。

